

最近の中国におけるコウライアイサの 越冬分布と個体数

何芬奇¹・林劍声²・楊斌³・江航東⁴・張浩輝⁵

1; 中国科学院動物研究所 2; 広西省科学院
3; 弋陽コウライアイサ保護協会 4; 厦門観鳥会
5; 香港観鳥会

訳 福井和二

摘要; コウライアイサ (*Mergus squamatus*) はこれまで我が国で広く越冬が記録されてきたが、分布地点の記録がまとまりなく、個体数も少なく、同一地点で10羽以上記録されたものもまた非常に少ない。20世紀90年以来個別の地点で少数発見されたコウライアイサの越冬個体群は、持続的に観察された結果は非常に少ない。21世紀はじめに贛¹ 東北の弋陽、婺源と相繼いで比較的大きい越冬群を発見、100羽を超える個体群で、安定した生息が保持されている。両地の記録はこの種の世界総個体数の1%を超える数で、さらに保護に努める必要がある。

コウライアイサ (*Mergus squamatus*) はカモ目 (Anseriformes)、カモ科 (Anatidae) に属し、東アジア地域独特の希少な水鳥で我が国の国家I級の保護動物、国際的にも危急種とされ (Vulnerable, VU)¹¹⁻¹³⁾、我が国で出版されている〈レッドブック〉中にも希少種¹⁴⁾としてランクされ、絶滅危惧種とされている¹⁵⁾。

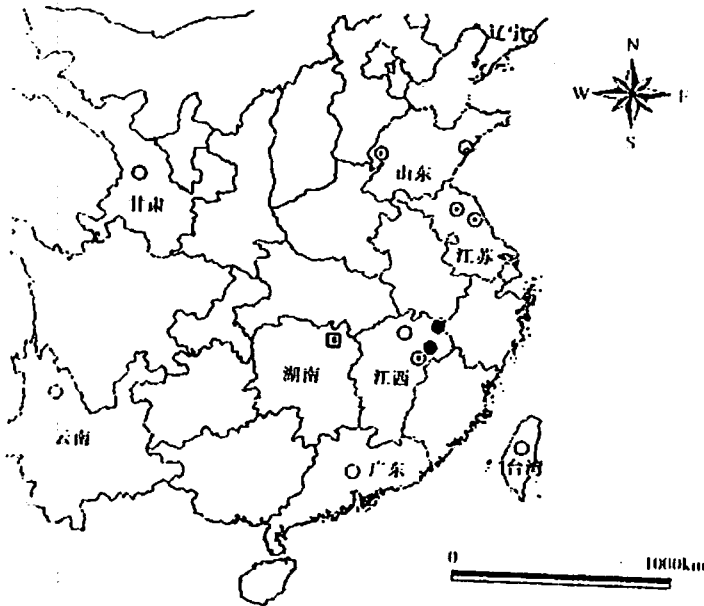


図1 1990年以降におけるコウライアイサの越冬記録
○<10羽 ⊙10~20羽 □20~40羽 ●>40羽

コウライアイサの主な繁殖地はロシアシベリア東南部と沿海州から我が国東北部の地域、朝鮮北部にもわずかながら繁殖の記録がある。渡りの経路は我が国東北部、華北沿海部で、越冬の記録は我が国の台湾を含む南方の大部分の地域で、日本、韓国、東南アジア諸国でもわずかながら見られる^[3,6-9]。

過去十幾年間、湿地および水鳥の野外調査研究に関わり、コウライアイサに関する我が国の越冬地および越冬個体群の数が次第に明らかになってきた(図1)。

1. 歴史上の記録

コウライアイサの中国南方各省における最も古い越冬記録は19世紀末に遡り、Ogilvie-Grantによる湖南省西北部の沅江(黔陽)の記述があるが^[10]、近来この記録についての信頼性に疑問が提出されている^[1]。

20世紀前葉におけるコウライアイサの我が国内越冬記録中、ThayerとBangsの四川省岷江支流、青衣江沿いの雅安、洪雅、樂山を結ぶ幾つかの地点で記録があり^[11]、ならびにMartens, La Touche, 鄭作新等による福建省中北部の広い範囲の採集記録など^[12-16]、これらについて分析、研究することはコウライアイサの越冬生息地の選択や局所的分布範囲を知る上で有益である。

《亜洲受脅鳥類》(アジアにおいて脅威を受けている鳥類)という書は、コウライアイサの歴史的分布地点をについて相当詳細に記述しており^[3]、ここで再び述べるまでもない。

2. 最近の調査結果

20世紀90年代初期に数回にわたって行われた大規模な越冬期水鳥調査中、少数のコウライアイサが記録された。その数は1990年28羽、1991年20羽、1992年11羽と甚だ少なく、しかも、年ごとに減少している趨勢であった。越冬地点は遼寧省の丹東、山東省の青島、江蘇省の塩城千湖、高宝湖、湖南省の東洞庭湖ならびに黄河上流の蘭州付近の湿地等である^[17,18]。

以上のコウライアイサ越冬地点の数を見てくると、ただ、越冬群と言えるものは江蘇省の2カ所、高宝湖17羽(1990年)、沿海千湖12羽(1991年)のみである^[17]。

別の報告によると、渡りの時期に黄河三角州国家級自然保護区に滞在した記録があり^[19]、また最近の報告では、山東省の聊城付近の東昌湖に、12月から3月にかけて何回もコウライアイサの出現し、数は数羽から20余羽程の記録がある^[20]。

90年代中後期において、雲南省西北部、麗江の拉市海で3月初め6羽のコウライアイサが発見され、これが現在のところ我が国の南西部における最新の越冬例である^[21]。この以前に1975年1月平塘において採集の記録がある^[22]。

これに関する報告と我々の野外観察によれば、江西省鄱陽湖国家級自然保護区において、ほとんど毎年冬季にわずかなコウライアイサを見ることがあるが、継続して越冬群を見ることはない^[23,24]。

湖南省東洞庭湖国家級自然保護区およびその近隣水域において年来継続してコウライアイサの越冬記録があり、数が増えている状況にある²。1999~2000年冬季に観察した記録ではコウライアイサの越冬個体は30羽で、主な生息場所は東洞庭湖と南洞庭湖の境界付近であった^[24]。

1999年12月に江西省弋陽県の信江で100羽あまりのコウライアイサ越冬個体群を発見した^[25]。我々は2000年11月下旬より弋陽の信江におけるコウライアイサ越冬群の調査を開始した。当時弋陽の信江10kmほどで第1次調査が行なわれ、18羽が数えられ^[26]、2001年12月下旬の調査で12~13羽、2002年12月下旬18羽^[27]、2003年11月12日31羽を記録。その後、2004年1月1日と9日、それぞれ58羽と50羽を記録し、この冬の最高を記録した。2004年

暮れの最高記録は39羽、2005~2006年間の最高記録は34羽であった。

筆者は2002年、婺源で、贛東北地区では比較的安定した越冬コウライアイサの個体群を正式に確認した¹²⁷⁾。

2004年12月8~10日、我々は婺源から40km内の楽安河を徹底的に調査し、60羽(雄25, 雌35)を記録した。2005~2006年の冬季は最高41羽(雄24, 雌17)を記録した。

贛東北地区の弋陽、婺源に越冬コウライアイサに関する資料の詳細は現在整理中である。

2006年3月1日、我々は貴溪県の信江で15羽(雌7, 雄8)のコウライアイサを確認した。

2006年1月21日、廖曉東先生は広東省従化の石門でコウライアイサの雌1羽を観察した。これはこの30年来、広東省における唯一の記録である。

台湾では毎年平均5羽の越冬報告がある¹²⁸⁾。

3. 討論

我が国におけるコウライアイサの越冬分布に関するこれまでの文献は曖昧なものがあり、多くは、この鳥は長江以南の各省で越冬すると称せられている^{17, 8)}。最近出版された中国鳥類関係の専門書のなかでさえ、この見方は大きく変わってはいない^{14, 9)}。これは主として昔の報告に数値的な資料が欠けていることによる。

アイサ類は水鳥中でも比較的特殊な種類で、食性の関係により、環境条件が適当であれば、彼らは何処へでも渡ろうとするらしい、とりわけ長距離の渡りについては、この点に関しては、これまでにロシアの文献が多く、相当の数のコウライアイサが明らかに、繁殖地にそのまま滞り、渡りをしないことを報じている^{16, 29, 30)}。もしそうであれば、コウライアイサの越冬分布範囲は相当大きなものとなる。

最近、数十年の我が国における越冬コウライアイサの報告を分析したところ、基本的な関係地点を含め、すでに知られているコウライアイサの総体的な分布範囲を超えることはなかった。20世紀90年代初め、遼寧省の丹東と山東省の青島の両所で始めて越冬記録が正式に報告され、この種の我が国における最も北方地方の越冬地点である。残念ながらコウライアイサの我が国繁殖地における越冬個体群の報告はまだなく、現在ある資料は繁殖期を過ぎた後の個体群までだが、冬季における我が国東北地方でコウライアイサ発見される可能性はある¹³²⁾。

この外、20世紀初頭からThayerとBangsは四川省岷江支流の青衣江に沿った雅安、洪雅、樂山などで記録があり、別にMartens, La Touche, 鄭作新等による福建省中北部の広い地域での採集記録がある¹¹¹⁻¹⁶⁾。21世紀に至り贛東北地域の弋陽、婺源などでコウライアイサが持続的に観察記録された。ここ100年の間、わずかな記録しかなく、数十年間はまったく記録が絶えており、ただ元どおり見られたに過ぎないが、この地域の生態環境が大きく変化したためか。しかし、我が国で越冬しているコウライアイサは好んで河川を利用しているという1点は変わらない。

コウライアイサの世界全体の個体数に関して、Wetland Internationalの20世紀90年代に提供された資料では3600~4500羽とされ¹³³⁾、この数字は中国の鳥類学者趙正階等が90年代初頭にこの鳥について繁殖状況の調査、分析を行なった結果による¹³⁴⁾。最近出版されて多くの著書に繰り返し引用されている^{12, 3, 35, 36)}。

しかしながら、コウライアイサの全個体数の趨勢は減少していると認められているが^{12, 3, 33, 36)}、ロシアの研究者によれば沿海州地域のコウライアイサの個体数は近年来回復している述べている¹³⁷⁾。

この2, 3年来の報告を見ると, これまで実際に我が国におけるコウライアイサの越冬範囲は広がっていると認められるが, 我が国本来の越冬中のコウライアイサ個体群の主体がどのようなかの立証説明が不足している。

これは, 現在わかっているおおよその個体数評価を行ない, 中国内の越冬コウライアイサの個体数は, 全体の個体数のわずかな部分を占め, 一部分に過ぎず, 越冬個体数中に当年生まれの幼鳥が含まれていることを考慮しても, この比率はさらに低い。

総じて述べると, コウライアイサが多く出没するのは流れの急な河川あるいは広い湖沼で, 常につがいか, 家族群を形成し, 潜水により魚を捕食している¹⁷⁾。我々の野外観察によると, コウライアイサは冬季間これらの習性を維持している。これはある程度野外調査を難しくしている, 同時に高い比率で観察の結果が全てがわずかな個体であることを示し, 数十個体の群れを見ることが非常に稀である。

21世紀になってから贛東北地域で, 現在, 知られているコウライアイサの最大の越冬個体群を調査した。弋陽と婺源両地の越冬コウライアイサが最高の個体数で, これだけですでに世界総個体数の1%を超えている。

弋陽と婺源両地域におけるコウライアイサの越冬生息環境を見るに, その共通する特徴は澄みきった河川で, 流れが速く, 河の中に砂州があり, 河岸の一面が険阻な崖になっており, 人の活動がなく, 干渉が少ないことである¹²⁷⁾。

これは注意に値する, とはいえ, 四川省ではすでに長い間コウライアイサの越冬記録はない。しかし, 丁長青等が秋に陝西省洋県(楊柳)の佛坪でコウライアイサを見ており(私信), 四川省においてコウライアイサの越冬個体群の分布がきわめて高いと表明している。ほかに, 安徽省, 浙江省, 福建省もコウライアイサの越冬報告が長年ないが, 当然調査を強化すべきである。

4. 保護について提案

すでに, 《中国瀕危動物紅皮書(鳥類)》(レッドデータブック)中にコウライアイサの保護について“保護区の設立”を明確に提出されている¹⁴⁾。

近年来コウライアイサの我が国における越冬状況に関する報告は, 江蘇省沿海干潟と幾つかの湖沼(高郵湖と邵伯湖), 湖南省の洞庭湖, ならびに贛東北地域の弋陽, 婺源等の地域は現在コウライアイサが集中的に越冬している地域として知られ, とりわけ, 弋陽, 婺源は持続的にコウライアイサが越冬できる場所で, 重大な関心を寄せるべきである。

上述の3カ所中, 江蘇省はすでに大規模な自然保護区が確定しており, 湖南省の洞庭湖もすでに早くから国家級自然保護区が設定され, 東洞庭湖自然保護区は我が国における国際重要湿地の一つであるが, ただ一つ, 江西省弋陽の信江流域は現在相応した類型とクラスの自然保護区は設定されていない。弋陽と同じく婺源県には千羽内外の持続的大規模なオシドリ(オシドリ)の越冬群がおり, これらを巻き込んだ保護を考慮すべきである。贛東北地域その他各種の湿地類型, 生態環境, 及び越冬する水鳥の基礎的な野外調査の上に立って, 婺源県を含む自然保護小区を計画し, この地域の湿地生態環境と越冬水鳥の保護措置と管理方法を制定することを提案する。

訳注

*1 贛; 江西省の異称。

*2 東洞庭湖自然保護区, 湖南省岳陽東洞庭湖自然保護区自然資源総合化学考察報告, 1993.